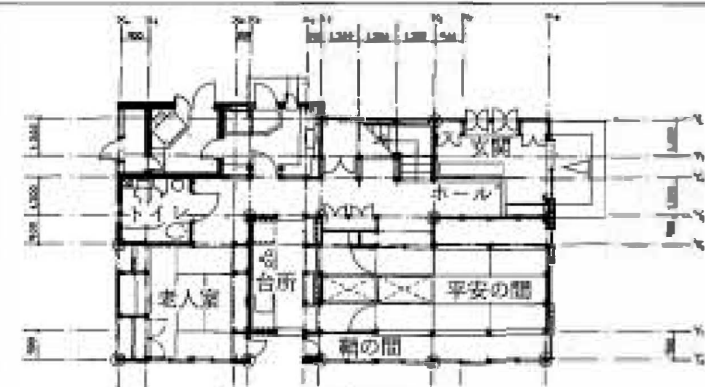


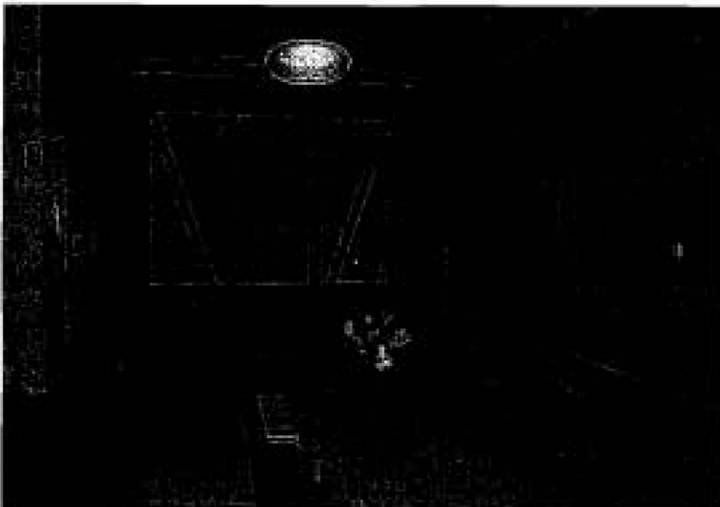
未完成の家

設計監理：〇〇〇〇〇〇

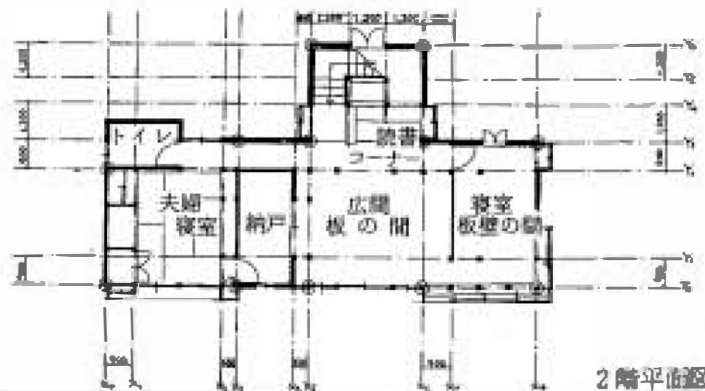
担当：〇〇●〇〇



1階平面図

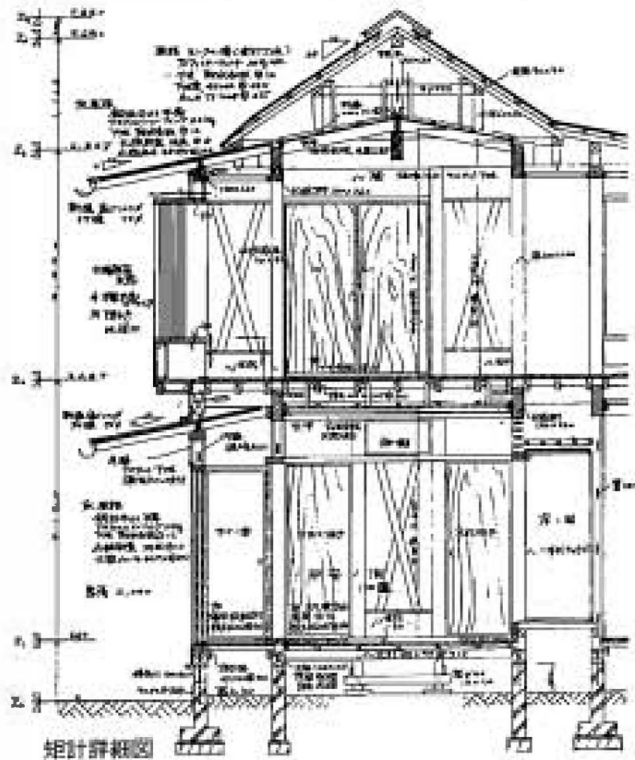
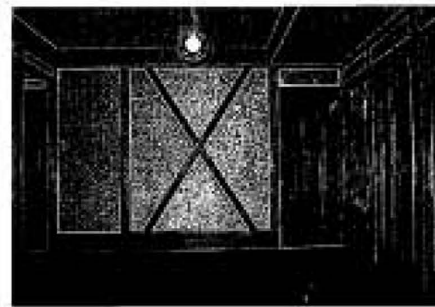


平安の間



2階平面図

2階板の間より
板壁の間を臨む
南側出入口は出
窓の巾と喰い違
っており、戸に
よる閉鎖は不可
能となっている



縦計詳細図

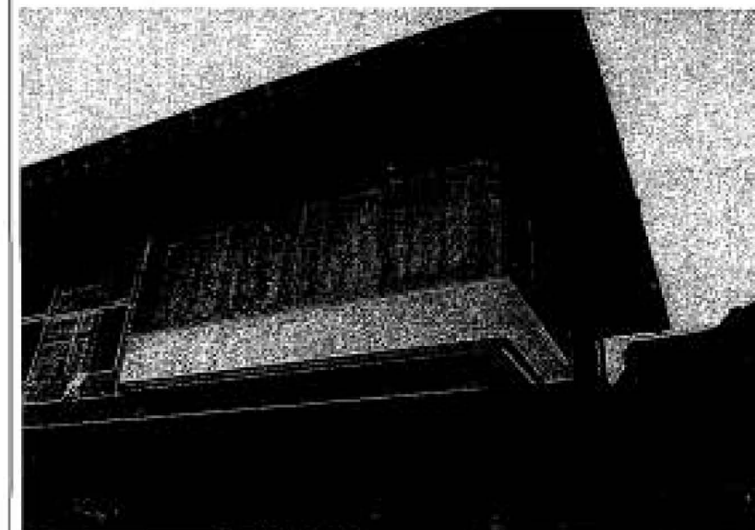


2階板の間より
納戸を臨む

設計主旨

本住宅の立地は市街地と農村地区の丁度端境に位置しており特に防火地域等に指定されない比較的穏やかな、ゆったりの環境にある。しかし周辺の住宅はその地域の典型的な農家スタイルをとる。オーナーの家族構成は老人1人と夫婦に大学4年生、高校生、中学生（いずれも男子）の6人家族で、ときたま親族の老連が集まるということであつた。資金的な面から要求室の所要面積を極力制限する必要に迫られたため、個室は最小限確保のための機能を受け持たせ、日常は共同生活を前提とし、その代わり9畳+3畳で12畳として機能するように2畳分を掘り下げた変則的な食堂兼居間を設け、屋根を低くすることで特徴を出すことに心掛けた。日中家に居る老婦人と主婦の接触重

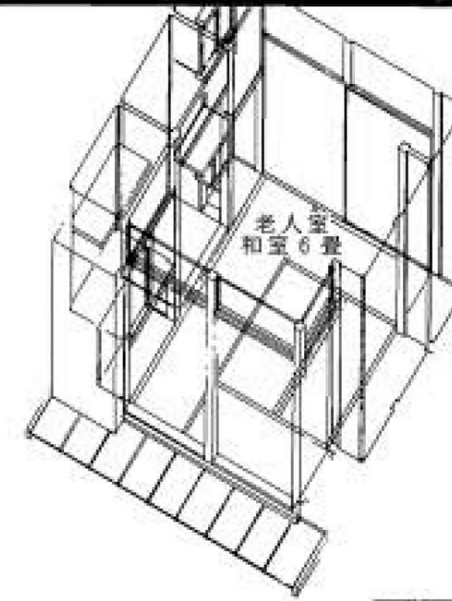
視という見地から1階地下を、200巾としてゆとりを持たせ、三男の情機教育という見地から、近未来に長男及び次男が使うであろうと予想される部屋を複数きの広間として解放している。広間は一時的に家具を間仕切として2人分の寝間を確保できるように計画されているが、いずれも完全な個室となることを嫌って三男の個室（板壁の間）ですら完全には個室化し得ない。将来長男が結婚した際には2階が若夫婦、1階が老夫婦の専有空間となろう。現在留守暮らしの長男と次男にとって、1階平安の間は恰好な寛ぎ空間であり、2階広間は三男の級友達の泊まり場、地下は老婦人の運動の場として機能している。但し、資金難からオーナー手ずからの作業も多く、今も続いている。



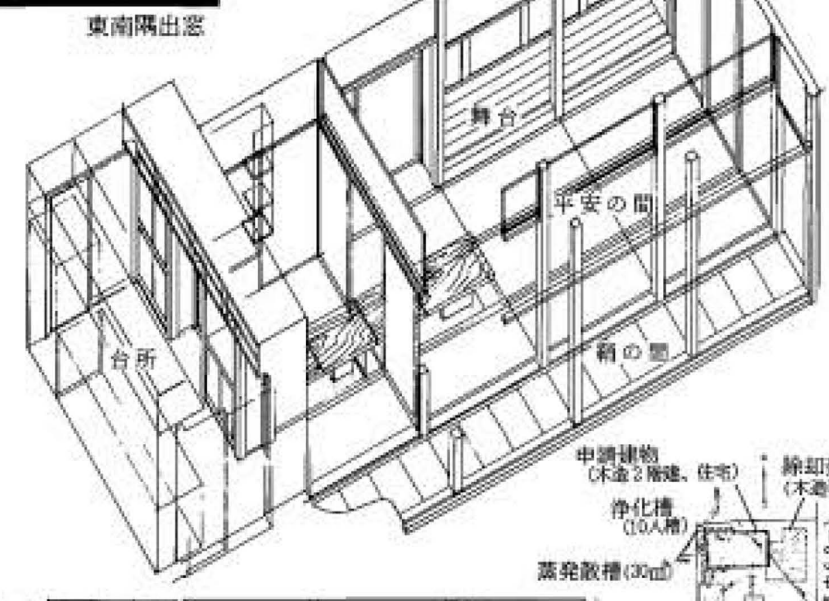
東南隅出窓



北側全景



老人室
和室6畳



中継建物
(木造2階建、住宅)
浄化槽
(10人用)
蒸気散槽(30cm)
既設建物
(木造平家建、物置)
道路(幅員6.3m)



東西断面図

建物概要

[建物名称] 松崎家住宅
[発注者] 松崎 某
[用途] 個人住宅
[所在地] 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇
[設計管理] 〇〇〇〇〇〇
基本設計 〇〇〇〇〇
実施設計 〇〇〇〇〇
[施工] 松崎工務店

[規模]

構造 木造
階数 地上2階
敷地面積 960.08 m²
建築面積 106.39 m²
延床面積 181.42 m²

[総工事費] 〇〇〇〇〇〇 円
[設計期間] 1989年7月～1989年10月
[工事期間] 1989年10月～1990年10月

[主な外部仕上]

屋根 アスファルトシングル葺
庇 銅板平葺
外壁 ラスカッタ下地
強性タイル吹付
ヘッドカッタ仕上

[主な内部仕上]

内壁 漆喰仕上
2階寝室・洗面所・トイレ
は杉板横貼